

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社
代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

衣替えの季節となりましたが・・・梅雨明けが

待ち遠しいこの頃です。

日本のサニブラウンが100m9秒97と輝かしい成績を残した事に誇らしい思いが致しました。

スポーツの世界は国境を超え誰もが平等に評価したいものだと考えます。本格的な夏をひかえ、いっそうご自愛下さい。

サンライズの物語

人生の先輩との出会い—— 平和な未来を願う物語



その方は高齢ですがいつも前向きでお会いすると元気を貰えるような方です。私の亡き父と同じ年齢でした。

大東亜戦争の時、私の父の兄が兵隊へ召集された時に「絶対に志願して戦争に行っては駄目だよ」と言い聞かされていたにも関わらず16歳だった父は兄の言いつけを守らず海軍へと志願したそうです。若かりし時の父の海軍の写真はいつも隊長の横に鎮座しておりました。

その方も志願して戦地へと行ったとの事。連合艦隊指令長官だった山本五十六氏と一緒にいたそうです。戦艦大和にも乗船していましたが、ある時山本五十六氏が「年の若い者は降りろ。これからの日本を支えるんだ」と無理やり下ろされたとの事。その方曰く「今生きているのは山本五十六氏のお陰だ。先見の明があった人だった」。

以前、山本五十六氏の姪の方からも話を聞いた事がありました。山本五十六氏の画廊には巻物があり、その中には「この戦争に日本は負ける」と記載してあったとの事。

何故その時戦争と言う選択しかなかったのか悲しい思いにかられます。

人生の大先輩方との出逢いに感謝するとともに、戦争を知らない後世の人達に伝えていかなければならない責任とこれからの新しい時代において二度と同じ過ちは犯さないで欲しいと願うばかりです。

サンライズのデイサービス陽光だより



【介護職員】
齋藤 裕司

サンライズのデイサービス陽光の介護職員の齋藤 裕司です、よろしくお願いいたします。

以前は老人ホームで2年間、介護職員として務めておりました。

デイサービスでの勤務は初めてですが今までの経験を活かして皆さまに喜んでいただけるサービスを提供できるように頑張っております。

【入社5/9】 【血液型A型】



井上から
エール！

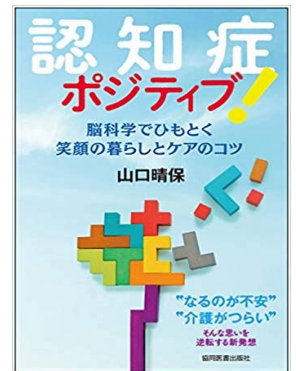
齋藤さんをどうぞよろしくお願いいたします。
週五回、出勤しております。

介護に役立つ書籍紹介

認知症ポジティブ！

著：山口 晴保

介護が「認知症の人に〇〇してあげる」から、「認知症の人と〇〇する」になり、さらに「認知症の人が〇〇する」という本人主体のものへと進化している中、豊かな老後の暮らしを自ら考え、社会に貢献しながら生きがいを感じつつ、笑顔で生き暮らすことを願う方々や、認知症の人を支える介護家族、そして、彼らをサポートするすべての医療・ケアスタッフ必読の書となっています。



NEWS 今月のニュース

福祉団体へ商品 県等セブンイレブンと協定

和歌山県と県社会福祉協議会は12日、(株)セブンイレブン・ジャパン（東京都）と「商品寄贈による社会福祉貢献活動 寄贈品に関する協定書」を締結した。同社の県内店舗が改装する際に生じる在庫商品の一部を県社協を通じて福祉団体に届ける。

同社は昨年4月の横浜市を皮切りに各地の自治体と同様の協定を締結しており、和歌山は15自治体目。寄贈する商品はレトルト食品や缶詰、せんべいなどの食べ物

やシャンプー、アルミホイルなどの生活用品。地域で高齢者や障害のある人、子どもなどを支援している団体に届ける。

この日は、同社の嵐陽一関西ゾーンマネジャー、県社会福祉協議会の中西淳常務理事、県の宮本浩之福祉保健部長が県庁で協定書にサインした。

嵐ゾーンマネジャーは「買い物弱者の方が非常に増えている印象がある。企業の社会的責任として地域に寄り添い、連携を強化することが大切と考えている」と話し、中西常務理事は「困っている人たちを助けるには法律に基づき制度

化された福祉制度だけでは足りない。このネットワークを発揮し、生活に困っている人を支援していく」と強調した。宮本部長は「大変ありがたい。高齢化が進む和歌山で支え合いの力を広げたい」と話した。



<わかやま新報
2019年6月14日(金)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>